

「The Valuable 500」コミットメント

■読売新聞東京本社のコミットメント■

読売新聞は、報道・言論機関として進むべき方向を約束した「読売信条」の中で、「個人の尊厳と基本的人権に基づく人間主義をめざす」との指針を掲げています。この理念に基づき、障害を持った方々が生き生きと活躍できる社会の実現を目指し、取材・報道にとどまらず、幅広い活動に取り組んできました。「The Valuable 500」への参加を機に、こうした活動をさらに積極的に推進していきます。

1. 報道関係

- ・ 報道機関としてこれまでに、新聞報道を通じて障害者福祉制度の在り方、社会が取り組むべき課題などを幅広く問いかけ、障害者に優しい社会の実現に向けて啓発を続けてきましたが、さらに推進していきます。
- ・ 障害者スポーツの祭典であるパラリンピックについては、1998年長野パラリンピックから取材団を組織し、本格的な取材・報道に取り組んでいます。また、パラリンピックより古い歴史を持ちながら主要メディアではほとんど報じられなかった聴覚障害者の国際スポーツ大会「デフリンピック」にもいち早く取材記者を派遣し、紙面で連日報道するなど、報道を通じた障害者スポーツの振興に尽力してきました。今後もスポーツをはじめ、文化や芸術、社会活動など多様な分野における障害者の方々の活躍を発信していきます。

2. 社会貢献活動

- ・ 2004年のアテネパラリンピックで、日本パラリンピック委員会（JPC）の公式パートナー第1号となり、以降、2006年トリノ、2008年北京など、障害を乗り越えてスポーツに打ち込むアスリートたちを応援してきました。東京2020パラリンピックでも公式パートナーとなっており、今後もパラリンピアンが世界で活躍する姿を応援していきます。
- ・ パラスポーツの競技者や団体を対象とした日本で唯一の表彰制度である日本パラスポーツ賞を2016年度に制定するなど、顕彰事業を通じた障害者スポーツの振興への取り組みを継続します。
- ・ 創造的な福祉事業に取り組む個人や団体を顕彰する「読売福祉文化賞」を2003年度に創設し、ハンディキャップを持つ人たちが地域社会の一員として楽しく生活できる社会を目指して活動している福祉活動の新たな担い手に光を当てています。
- ・ グループ関連の社会福祉法人「読売光と愛の事業団」は、目の不自由な子供たちを支援するため、1961年に設立された「読売光のプレゼント協会」が源流です。現在は、障害者が働く福祉作業所や障害者のサポートを続けるボラ

ンティア団体への助成や、角膜移植を斡旋するアイバンク事業などを通じ、障害者の方々の自立を支援しているほか、特別養護老人ホーム、介護老人保健施設を運営しており、読売新聞は事業団に対して資金的、人的支援を続けています。これからもグループ企業・法人を含め、障害者支援のための幅広い社会貢献活動を継続します。

3. 社員の活躍推進

- ・ 障害者雇用に積極的に取り組み、一人ひとりの適性や意欲、ライフスタイルに応じて力を発揮できる、働きやすい職場環境づくりに努めています。
- ・ 社員向け研修でダイバーシティ推進の重要性も取り上げています。
- ・ 2014年に開業した読売新聞ビル（東京都千代田区）は、最寄り駅からバリアフリー対応のエレベーターで直接入館でき、各階には車いす対応の多目的トイレも設置されており、障害者でも訪れやすく、働きやすい環境を整えています。

以上